

ふくおかAL通信

～県立学校の教室から～

第33号
(R2.3.13)

福岡県立学校
新たな学び
プロジェクト

福岡県立三井高等学校

「夢を持ち、夢へ挑め！！」 ～たくましく前へ進む三井高生～

福岡県立三井高等学校は、自然豊かな筑後平野の北部にあり、創立105周年を迎える歴史と伝統のある高校です。「自律 礼節 剛健」の校訓のもと、スポーツ健康コースと福祉教養コースを各学年に1クラスずつ、普通科一般を2・3年生は3クラス、1年生は2クラス設置しています。教育課程は多様な進路に対応しており、社会の変化に主体的に対応できる能力を培うことで地域社会に貢献できる有為な人材の育成を目指しています。

1 授業改善の目指す方向性

三井高校は105年の歩みの中で、社会を支え地域に貢献する人材を多数輩出してきました。例年、学年の生徒の約半数が就職をしているため、実社会で即戦力として活躍できる人材の育成が求められています。生徒や保護者、そして地域社会のニーズに応えるために、自ら考え、行動し、社会の変化に柔軟に対応できる生徒を育成する必要があります。そのため、主体的・対話的で深い学びの実現を図るとともに、評価の改善にも取り組んでいます。

2 授業改善の推進体制

(1) 推進体制

授業改善を推進していく上で中心となっているのは、教務部と研修部です。ハード面としては、電子黒板3台、タブレット型端末6台、まなボードを活用しています。

(2) 授業改善に関する校内研修

県教育センター指導主事による観点別評価についての講義及びルーブリック作成の演習・協議を行っています。

(3) 授業等の具体的な取組

平成28年度から協働的な学びの導入に着手し、6月に相互授業参観、10月に研究授業週間を設けています。平成29年度からは、年度毎にテーマを定めて相互授業参観や研究授業を行っています。平成29年度は「ユニバーサルデザインを意識した」授業、平成30年度は「ICTを活用した」授業、令和元年度は「アクティブ・ラーニング」とテーマを定めて実施してきました。この取組の結果、相互授業参観や研究授業週間終了後も、多くの教員が意識的、積極的に協働的な学習を展開するようになりました。例えば、家庭科の授業の中で英語による日常生活を想定したやり取りを入れたり(写真1)、理科の授業に情報の授業で習得した技能を活用したりと教科等横断的な視点での授業実践に取り組む教員も増えています。

また、「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」においては、生徒の各取組にPDCAの視点を盛り込み、生徒の発信する力を高めるようなプログラムにしています。



写真1 家庭科と外国語科の教科等横断的な授業

3 授業改善の実践

(1) 物理基礎（1学年）

ルーブリックを活用した授業を展開しています。まず、生徒に対して、授業の初めにルーブリックを示し、評価基準と評価方法を確認します。このことにより、達成すべきレベルが明確になり、教員にとっては評価の公平性を保つことができ、授業の改善点もはっきりとします。生徒からも「自分から進んで教科書を読むようになった」や「何を評価されるかが事前に分かるので、どのようなことを心掛けて授業に臨むと良いかわかりやすい」などの声が聞かれるなど学習への意欲が高まりました。

(2) コミュニケーション英語 I（1学年）

教師が、話し合いのテーマや資料を動画や画像で提示したり、生徒が、作成したスライド資料を使用してプレゼンテーションを行ったりするなど ICT を活用した授業を展開しています。また、音読や暗唱においてペアワークやグループ活動を充実させ、生徒の主体性の向上を図っています（写真2）。さらに、ALT との TT の取組では、ALT に英語で三井高校や小都市を紹介するプレゼンテーションを行うなど表現力の育成にも力を入れています。その結果、昼休みや放課後に自主的に英語での音読に取り組む生徒も増えています。



写真2 ペアワークの様子

(3) キャリア教育（総合的な学習の時間・総合的な探究の時間）

2年生が夏季休業中に実施したインターンシップの内容や感想を職種別に発表します（写真3）。生徒は発表に際してインターンシップによる自らの気づきや受入先のアドバイスを基に振り返りを行います。このことが自らの職業観を形成し、学習意欲を高めることにもつながっています。また、発表会には1年生も参加するため、2年生にとっては皆に発表内容が伝わるよう工夫するなど表現力の育成が図られ、1年生にとっては次年度のインターンシップへの意識付けとなっています。



写真3 インターンシップ発表会

4 授業改善の取組による効果

授業において協働的な学習を展開することが全校的に広がっています。協働的な学習を展開し、生徒が発言する場面を設定することによって、主体的に授業に参加する生徒が増えています。さらに、生徒の振り返りの時間を設けることにより、自らの学習への取組を見直し、授業を通して何ができるようになったかを確認できるようにしています。この取組が広がるにつれて、教員が一人一人の生徒をしっかりと見取ろうとする意識が高まり、教員間の生徒に関する情報交換が活発になり、教員間のコミュニケーション量も増えています。

授業改善の取組の広まりとともに、生徒にとって常に自分の意見を求められる場面がつけられ、その結果、自分の意見を堂々と述べ、リーダーシップを発揮できる生徒も増えています。また、意見を述べる場が数多く設けられるようになったことにより、他の生徒の意見をきちんと聞く態度も育まれ、他者への尊重の気持ちも芽生え、安心して発言できる雰囲気も生まれています。

5 成果と今後の方向性

授業改善を進めることにより、生徒の学びへの意識が変容してきていることは全教員が実感できています。今後、この取組をさらに全校的に日常的に広げていく必要があります。そのため、三井高校の目指す生徒像から、段階的にどのような力を付けていくべきかベクトルを揃え、計画的、組織的に授業改善を推進していこうとしています。